

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2017年7月12日公表

USDA Crop Production

5月農業概況（2017年6月9日公表）

米国西部及び南東部を除いて、米国の大部分の地域では5月の平均気温が平年並みを下回った。大平原地域及びミシシッピー溪谷地域では、5月の平均気温が平年並みを1.1℃下回った。

米国東部の多くの地域で5月始めの湿潤な天候により農作業が妨げられた。オハイオ溪谷地域東部、デルタ地域及び大西洋沿岸中部の多くの地域で5月の降水量が平年並みを203mm上回った。米国西部では5月中は比較的乾燥した天候が続いた。

5月末には、米国西部地域及びコーンベルト地帯に乾燥が広がったことにより、農作業に適した条件が続いた。しかし、大平原地域北部では乾燥により、一部の作物の生育状況に不利な影響が生じた。

6月農業概況（2017年7月12日公表）

6月の平均気温は、米国西部の地域では全般的に平年並みを上回り、米国南西部では平均気温が平年並みを2.2℃上回った。

デルタ地帯から大西洋沿岸地域南部にかけては、6月の平均気温は平年並みを下回った。ミシシッピー溪谷以西の地域では、平年並みに比べて乾燥した天候が続いた。大平原地域北部では乾燥が早魃の水準に達し、モンタナ州、ノースダコタ州及びサウスダコタ州で作物及び牧草の生育に影響が生じた。

その他には、メキシコ湾沿岸地域で平年並みを381mm以上上回る降水量が記録された。6月末には、トロピカルストーム・シンディ及びそれに続く熱帯性低気圧の影響により、アラバマ州、ルイジアナ州及びミシシッピー州で農作業に大幅な遅れが生じた。

表1 米国の銘柄別作付・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017
オーストリアン ウィンターピー	15,380	10,930	11,330	7,280	1,704		477	
乾燥インゲンマメ	672,590	737,750	630,750	714,680	1,842		28,712	
ヒヨコマメ	131,650	186,970	129,500	184,540	1,702		5,447	
大粒	85,590	121,810	84,660	119,870	1,677		3,509	
小粒	46,050	65,160	44,840	64,670	1,749		1,938	
乾燥エンドウ	559,280	449,210	538,160	427,760	2,086		27,737	
レンズマメ	377,580	410,760	367,460	399,020	1,397		12,685	
リンクルドシードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		439	

データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は2017作物年度全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。作物生産量：2017年7月12日公表。米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)

カナダ：2017年6月15日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省 (AAFC) が5月に公表したカナダの2016/17作物年度及び2017/18作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。ただし、トウモロコシ及びダイズの作物年度は9月1日に始まり、8月31日に終わる。

乾燥エンドウ

2016/17作物年度のカナダの輸出量は、2015/16作物年度に比べて44%増加して過去最高記録の380万tとなる見込みである。これは、世界的に需要が多く、特にインド、中国及びバングラデシュへの輸出量が多かったことによるものである。米国の乾燥エンドウ収穫量が過去最高記録となったにも関わらず、8月から4月までの期間のカ

ナダから米国への輸出量は前年の同じ期間の輸出量を上回った。国内利用量が増加し、輸出需要が過去最高記録に達するほど大きかったことから、カナダの期末在庫量は減少する見込みである。黄色乾燥エンドウの価格が大きく低下したことから、乾燥エンドウの平均価格は、過去最高となった2015/16作物年度から低下するものと予測されている。

黄色乾燥エンドウの緑色乾燥エンドウに対する価格上乗せ分は、作物年度を通して平均5ドル/tとなるものと予測されており、2015/16作物年度に緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を75ドル/t下回ったのに比べて対照的な値となっている。5月の1カ月間に、黄色乾燥エンドウの価格は10ドル/t高くなったが、緑色乾燥エンドウの価格は、輸出需要が堅調であったことから変化がなかった。

2017/18年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、2016/17年度に比べて6%減少して160万haとなる見込みであるが、これ

は他の作物に比べて収益性が確実であることによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の52%を占めており、アルバータ州が45%を占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。

生産量は、平均単収が低下したことと作付面積が減少したことを反映して、15%減少して410万tとなる見込みである。さらに、期初在庫量が少なかったことから供給量は16%減少するものと予測されている。輸出量は減少する見込みであり、引き続きインド及び中国がカナダ産乾燥エンドウの市場として1位と2位を占めている。期末在庫量は減少して、平年並みの値を下回る見込みである。世界的に供給量が増加する一方で、需要は低下する見込みであることから、平均価格は2016/17作物年度に比べて低下する見込みである。

米国の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、18%減少して120万haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州で作付面積の減少が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、26%減少して100万tとなる見込みである。米国は、中国及びインドへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2017/18年度も引き続き、米国がこの市場に占める割合は変わりなく維持される見込みである。

レンズマメ

2016/17作物年度のレンズマメ輸出量は2015/16年度を上回って、過去最高記録の240万tに達した。主要な市場は引き続きインド、トルコ、アラブ首長国連合、パキスタン及びバングラデシュであった。国内総利用量は前年と同様に70万tに達する見込みである。期末在庫量は大幅に増加する見込みであるが、品質の面では前年に比べて低下する見込みである。等級の分布の面で平年並みに比べて品質の低いものの占める割合が大きいことから、全ての品種及び等級のレンズマメの平均価格は、前年の過去最高記録の水準から低下する見込みである。現時点に至るまで、大粒緑色レンズマメは赤色レンズマメに対して、過去最高記録に達する上乗せ価格（605カナダドル/t）を維持している。5月の1カ月間にサスカチュワン州の大粒緑色エンドウの生産者価格は60ドル/t低下し、赤色レンズマメの生産者価格は10ドル/t低下した。これは主として、カナダの作付けが終了し、カナダのレンズマメ生産量が過去最高記録に達する見込みとなったことによるものである。

2017/18作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は25%減少して178万haとなる見込みである。これは、前作物年度に品質が低く、等級の高いものが値下がりしたことによるものである。サスカチュワン州がレンズマメ作付面積全体の90%を占め、残りをアルバータ州が占めている。生産量は、AAFCの予測によれば、大幅に減少して280万tとなる見込みである。しかし、供給

量が少ないことに加えて、期初在庫量の大半を品質の低いものが占めていることで見通しは低調である。輸出量は2016/17作物年度に比べて減少して220万tとなる見込みである。期末在庫量は減少して、30万tに届かない見込みである。等級の高いものの価格は値下がりしたが、等級別の分布がより均等になったことから、平均価格は2016/17作物年度に比べて上昇する見込みである。

米国の2017/18作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2016/17作物年度に比べて13%増加して、過去最高記録の110万エーカー（44万5,200ha）となる見込みであるが、これはモンタナ州の作付面積が過去最高記録となるものと見込まれることによる。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2017/18作物年度のレンズマメ生産量はAAFCの予測によれば、2016/17作物年度に比べてやや増加して過去最高記録の60万tとなる見込みである。米国産レンズマメの主要な市場は、引き続きインド、EU及びメキシコである。

乾燥インゲンマメ

2016/17作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、前作物年度と同じものになるものと見込まれている。米国及びEUが引き続きカナダの乾燥インゲンマメの主要な市場であり、日本及びアンゴラへも少量が輸出されている。北米で供給量が減少したことから、2016/17作物年度の残りの期間も引

き続き、米国産及びカナダ産の大部分の乾燥インゲンマメの価格は現状を維持するものと見込まれる。

2017/18作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ作付面積は、8%減少する見込みであるが、これは2016/17作物年度に比べて収益性の低下が見込まれることによるものである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の47%を占め、マニトバ州が34%、アルバータ州が17%を占めており、残りがケベック州となっている。生産量は僅かに増加して24万tとなる見込みであるが、供給量はやや減少する見込みである。これは、輸入量及び期初在庫量が減少するものと予測されていることによるものである。供給量が限られていることから、輸出量は減少する見込みである。期末在庫量は変わらないものと予測されている。特にホワイトピーン・ビーン及びピントー・ビーンについて北米での供給量の増加が見込まれることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は低下するものと予測されている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、僅かに増加して48万5,600haとなる見込みであるが、これはミシガン州及びネブラスカ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2017/18作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、110万tとなる見込みで、2016/17作物年度に比べて4%の増加となると予測されてい

る。

ヒヨコマメ

2016/17作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、大幅に減少して11万5,000tとなる見込みである。これは主としてパキスタン、米国、EU及び中東諸国において輸出需要が低下したことによるものである。このような輸出需要の低下が、期末在庫量の減少に影響を与える見込みはない。期末在庫量が減少することで、価格は下支えされるものと見込まれる。世界的に供給量が減少していることから、平均価格は前作物年度に比べて大幅に上昇するものと見込まれている。

2017/18作物年度の作付面積は、2016/17作物年度に比べて減少する見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ作付面積の94%を占め、残りをアルバータ州が占めている。生産量は大幅に増加して11万5,000tとなる見込みである。輸入量の減少と期初在庫量の減少に

より、供給量の増加は僅かなものに留まる見込みである。輸出量は前作物年度と変わらず、期末在庫量は増加する見込みである。世界的に供給量が増加する見込みであるにも関わらず、2016/17作物年度に比べて等級の分布がより均等になる見込みであることから、平均価格は上昇する見込みである。

2017/18作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の20万2,300haで、前作物年度に比べて53%の増加となる見込みである。これは主としてワシントン州及びアイダホ州で作付面積の増加が見込まれることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2017/18作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、33万tと見込まれており、2016/17作物年度に比べて34%の増加となる見込みである。米国は引き続き、インド亜大陸及びEUにおける市場占有率を拡大する見込みである。

表2 カナダの豆類作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウマメ[a]			レンズマメ[a]			乾燥インゲンマメ[a]			ヒヨコマメ[a]		
	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]
作付面積 (1,000ha)	1,489	1,715	1,614	1,633	2,372	1,775	108	119	108	50	68	60
収穫面積 (1,000ha)	1,470	1,686	1,590	1,630	2,323	1,745	107	113	106	50	44	59
単収 (t/ha)	2.18	2.87	2.58	1.56	1.4	1.6	2.31	2.07	2.23	1.8	1.86	1.95
生産量 (1,000t)	3,201	4,836	4,100	2,541	3,248	2,800	249	234	236	90	82	115
輸入量 (1,000t) [b]	15	25	25	16	100	15	81	85	80	14	25	8
総供給量 (1,000t)	3,900	5,037	4,250	2,922	3,422	3,140	365	334	321	229	122	128
輸出量 (1,000t) [b]	2,647	3,800	3,200	2,145	2,400	2,200	324	329	316	151	115	115
国内総利用量 (1,000t) [c]	1,077	1,112	950	704	697	690	26	0	0	63	2	3
期末在庫量 (1,000t)	176	125	100	73	325	250	15	5	5	15	5	10
在庫量/利用量 (%)	5	3	2	3	10	9	4	2	2	7	4	8
平均価格 (\$/t)(d)	365	295-305	275-305	965	560-570	720-750	775	880-890	855-885	815	950-960	960-990

[a]作物年度（8月から7月）。

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量＝食料及び加工原料用＋飼料用副産物＋種子用＋損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格（FOB）。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

[f]カナダ農業食糧省による推定。但し、2016/17年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局による。

資料：カナダ統計局及び業界団体。

オーストラリア：2017年6月14日公表 ABARES Australian crop report

概観

2017/18冬作年度の始まりは、良好な条件と不利な条件が入り混じった状況となった。オーストラリア東部の生産地域(南オーストラリア州を除く)では秋季に降雨に恵まれ、全般的に土壌湿度が良好な水準であった。3月にはクィーンズランド州及びニューサウスウェールズ州、4月にはヴィクトリア州といった生産地域で、平年並みを大幅に上回る降水量が得られた。これらの大部分の地域の5月の降水量は、平年並みから平年並みを下回る値であった。オーストラリア西部の大部分の生産地域及び南オーストラリア州のいくつかの重要な生産地域では、秋季の降水量が平年並みを下回り、秋季から冬の始めにかけての作付の条件に恵まれなかった。

気象庁が2017年5月25日付けで発表した最新の降水量3カ月予測(2017年6月から8月)では、大部分の生産地域で冬季の降水量は平年並みを下回る見込みである。

オーストラリアの冬作の総作付面積は、2017/18冬作年度には約1%減少して2,250万haになるものと予測されている。穀物全体の作付面積は減少の見込みであるが、ナタネ、ヒヨコマメ及びレンズマメの作付面

積は増加する見込みである。ナタネの作付面積は全ての主要生産州で増加が見込まれており、これはコムギ、オート麦及びオオムギに比べて収益性が高くなる予測を反映したものである。

主要な冬作物についてみると、コムギの作付面積は約1%減少して1,270万haとなる見込みであり、オオムギの作付面積は4%減少して390万haとなる見込みである。これと対照的に、ナタネの作付面積は14%増加して260万haとなる見込みである。その他の作物としては、ヒヨコマメの作付面積が3%増加して110万haとなり、オート麦の作付面積は19%減少して73万4,000haとなる見込みである。

冬作物の総生産量は2017/18冬作年度には33%減少して4,010万tとなる見込みであり、これは主として2016/17冬作年度の例外的に高かった単収が、平年並みに低下したことによるものである。主要作物についてみると、コムギの生産量は31%減少して2,420万tとなり、オオムギの生産量は39%減少して810万tとなり、ナタネの生産量は20%減少して330万tとなる見込みである。その他の作物では、オート麦の生産量は38%減少して120万tとなり、ヒヨコマメの生産量は24%減少して140万tとなる見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2015-16 s	2016-17 s	2017-18 f	2015-16 s	2016-17 s	2017-18 f
ヒヨコマメ	663	1,069	1,101	1,006	1,854	1,416
ファバビーン (ソラマメ)	282	246	224	319	511	368
フィールドピー	238	230	219	205	415	257
レンズマメ	232	305	385	258	830	530
ルーピン	490	515	500	607	1,031	617

f: ABARESによる予測。 s: ABARES による推定。

注：作物年度は4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象とする。都市部の数値及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間で若干の差異が生じる場合がある。

資料：ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁) ; オーストラリア統計局; Pulse Australia

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
ヒヨコマメ												
2017-18 f	485	611	25	30	560	740	25	27	6	8	0	0
2016-17 s	480	792	16	28	550	1,000	19	27	4	7	0	0
2015-16 s	291	439	13	5	339	548	17	11	3	3	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	296	428	30	37	298	480	19	21	4	5	0	0
フィールドピー												
2017-18 f	53	59	45	50	0	0	90	110	31	37	0	0
2016-17 s	50	85	49	100	0	0	100	175	31	55	0	0
2015-16 s	48	73	54	21	0	0	114	82	22	29	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	50	68	51	64	0	0	110	140	34	43	0	0
レンズマメ												
2017-18 f	5	5	170	190	0	0	210	335	0	0	0	0
2016-17 s	5	10	140	350	0	0	160	470	0	0	0	0
2015-16 s	3	2	100	50	0	0	130	206	0	0	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	2	3	96	134	0	0	113	216	0	0	0	0
ルーピン												
2017-18 f	65	72	35	30	0	0	50	60	350	455	0	0
2016-17 s	51	66	33	60	0	0	70	100	361	805	0	0
2015-16 s	62	76	33	24	0	0	70	61	326	445	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	57	66	31	33	0	0	65	78	304	478	0	0

f: ABARESによる予測 s: ABARESによる推定。

注：作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500 t 未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値がゼロと表示される場合がある。

資料：ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表5 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16 s
	1,000t	1,000t	1,000t	1,000t	1,000t	1,000t
生産量						
ルーピン	808	982	459	626	549	607
フィールドピー	395	342	320	342	290	205
ヒヨコマメ	513	673	813	629	555	1,006
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	621	416	290	286	306	302
フィールドピー	95	130	145	175	124	72
ヒヨコマメ	39	93	1	0	1	1
輸出量						
ルーピン	186	565	169	340	243	305
フィールドピー	302	215	177	169	168	134
ヒヨコマメ	474	581	853	629	663	1,145

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明確な変化が認められたか推定された場合には、その値を引いて算出した値。s ABARES による推定。

注: 生産量、利用量、輸入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月まで。輸出量のデータは市場年度に基づくものであって、他の資料で参照されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500 t 未満のデータについては、四捨五入によりゼロと表示される場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、PulseAustralia